

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0874200256		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホームさくら館		
所在地	茨城県常総市馬場2 2 4 5 番地 (電 話) 0297-43-8611		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1 9 1 8 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】 (平成20年7月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての 1～2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成20年7月29日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3	6	要介護4	4
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 84.3 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八千代病院、湖南病院、野村歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

その人らしく生きることを支援することを目指し、職員は気負わず自然な態度で利用者に接している。
 利用者の健康状態が悪化した場合は、隣接の特別養護老人ホームの看護師と連携して対応するなど、同一法人事業所間での協力体制を築いている。
 看取りの経験を生かし重度化や終末期ケアのあり方について職員間で話し合い、「看取りに関する方針」を作成するなど重度化や終末期ケアに前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題であった書類等の作成などについて、前向きな姿勢で取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は外部評価の意義や目的を理解しており、管理者が職員にヒアリングを行い事業所全体として自己評価をまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月おきに開催しているが、議事録は作成されていない。また、出た意見をサービスの質の向上に活かすまでには至っていないので、議事録を作成するとともにサービスの質の向上に活かすことを期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム便り「さくら」を定期的に発行するとともに、利用者の家族に健康状態や日々の様子を随時報告している。 契約書に事業所以外の第三者機関に対し意見や不満、苦情を表せることを明記している。 事業所に直接相談があった場合は、相談受付票に記録するとともに対応について全体会議で検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の際に地域の人々と積極的に挨拶を交わすとともに、地域の保育園の運動会に参加し園児の保護者と交流している。 自治会の草刈りなどに参加し、地域の人々と交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人の命は、地球より重い」という事業所独自の理念を掲げ、その人らしく生きることを支援することを目指している。	○	省令の基本方針に示されている「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という視点で、地域密着型サービスとしての理念を全職員で作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内に掲示するとともに、事業所全体会議で理念の実践について話し合っている。 車いすを安易に使用しないなど、利用者の残存能力を生かすケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に地域の人々と積極的に挨拶を交わすとともに、地域の保育園の運動会に参加し園児の保護者と交流している。 自治会の草刈りなどに参加し、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は外部評価の意義や目的を理解しており、管理者が職員にヒアリングを行い事業所全体として自己評価をまとめている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催しているが、議事録を作成していない。 また、出された意見をサービスの質の向上に活かすまでには至っていない。	○	運営推進会議の内容を議事録として残し、出された意見を検討するとともに、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と運営上の相談をするなど、積極的に情報収集に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「さくら」を定期的に発行するとともに、利用者の家族に健康状態や日々の様子を随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に事業所以外の第三者機関に意見や不満、苦情を表せることを明記している。 事業所に直接相談があった場合は、相談受付票に記録するとともに対応について全体会議で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は利用者に納得してもらえよう前もって異動の理由を説明している。 異動によるダメージが予想される利用者にはレクリエーションなどの際に話しかけ、気持ちを和らげるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が積極的に研修を受けられるよう勤務体制を調整している。 研修を受けた職員は全体会議で報告し、職員間で内容を共有している。 研修計画を作成しておらず、計画的な研修の実施までには至っていない。	○	職員の段階別研修計画を作成することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修や介護支援専門員研修の機会を通じて同業者と交流しているが、サービスの質の向上に向けた取り組みまでには至っていない。	○	交流にとどまることなくサービスの質の向上に向けた取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたっては利用者が納得するまで何度でも見学を受け入れている。 急なサービス開始の場合には、利用者が慣れるまで家族に同伴してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩の際に利用者から植物の名前やその植物を用いた昔遊びを教わっている。 食事の準備の際、利用者から煮物の調理法を学んでいる。 職員の気持ちが落ち込んでいるとき、利用者からの声かけにより元気づけられるなどに支えあっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	包括的自立支援プログラムを用いて暮らし方の希望や意向の把握に努めているが、記録漏れが散見し把握するまでには至っていない。	○	利用者の思いや意向の把握がケアの出発点であることを認識し、記録漏れなどがないよう確実に把握することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	総合的な援助方針と解決すべき課題を記述した介護計画のほか、長期目標や短期目標を記述した介護計画を作成しているが、課題に対応した目標と整合性がとれていない。	○	介護計画に関連した書類を一本化するとともに、課題対応を意識して目標を立てることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画をモニタリングするとともに、3ヶ月毎に見直している。 介護計画の評価記録がなく、見直し経過が明確になっていない。	○	介護計画の目標達成度などの評価を踏まえ再アセスメントを行い、介護計画を見直すことを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「一時帰宅し外泊したい」など、利用者の要望に柔軟に対応している。 利用者の健康状態悪化時には、同一法人が経営する特別養護老人ホームの看護師と連携して対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科医や眼科医などホーム利用前から利用しているかかりつけ医への通院を家族と協力して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同一法人が経営する特別養護老人ホームの看護師の協力を得、「看取りに関する方針」を作成するとともに、全職員で共有し看取りを実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁した際にはさりげなく小声で誘導している。 利用者の自慢話などを否定せず、相槌を打ちながら傾聴している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食欲のない利用者には、後で食べてもらうなど柔軟に対応している。 複数のレクリエーションを用意し、好きなものを選択してもらっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。 味付けや食事の好みなどの会話をしながら食事を楽しんでいる。 旬の野菜の差し入れなどがあった場合は、利用者と相談してメニューを変えるなど食事が楽しみなものになるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回午後の入浴と決まっているが、利用者の希望や状況に応じてシャワー浴や清拭を支援している。 菖蒲湯やゆず湯など季節感を取り入れ、入浴を楽しんでもらうよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	包丁を使うことの得意な利用者には野菜を刻んでもらっている。 昔、農業をしていた利用者には、畑作業の指示をしてもらうなど昔の仕事を活かせるよう役割づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の田んぼを散歩するほか、近くのドラッグストアなどへ買い物に出かけている。 事業所の花火大会の際に、外出を兼ね利用者と一緒に花火を購入している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関などに鍵をかけることの弊害について職員間で話し合い、安全面に配慮するとともに鍵をかけないケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回事業所独自の避難訓練をするとともに、年1回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。	○	夜間の避難体制について、運営推進会議等を活用して地域の人々の協力が得られるよう話し合うことを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の特別養護老人ホームの管理栄養士の協力を得て、栄養バランスや利用者の嚥下能力に配慮した食事を支援している。 食事量や水分の摂取記録を残すまでには至っていない。	○	1日を通じた食事量や水分摂取量を職員間で共有するため、それぞれの記録表を作成することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の窓から田園風景を望み、明るくゆったりとした共用空間となっている。 ところどころにさりげなく観葉植物を配置するなど、質素で落ち着いた雰囲気的空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は衣装ケースや籐いす、テレビなど馴染みの品物を持ち込んだり、家族の写真を飾るなど思い思いの居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。